

1 計画策定の趣旨

これまでの取組を評価し、新たな課題について整理したうえ、県民の歯と口腔の健康づくりをさらに推進する

2 計画の位置づけ

歯科口腔保健の推進に関する法律第13条及び石川県歯と口腔の健康づくり推進条例第11条に基づく、県の歯科保健計画

3 計画の期間

平成30年度から令和5年度までの6年間

4 計画の目標

歯と口腔の健康づくりに関する施策を推進し、県民の生涯にわたる健康の保持増進に寄与する

5 これまでの取組と評価

○これまでの取組

- ・事業所等での歯科検診や出前講座を行うなど、歯科疾患予防の普及啓発に取り組んだ
- ・障害者施設等での歯科検診を行うなど、特に配慮が必要な分野に対する歯科口腔保健を推進した
- ・歯科保健医療従事者に対する研修会を開催する等、社会環境の整備に努めた

○目標達成状況

9項目のうち、6項目において、目標達成または改善が認められた

評価区分	項目数
A 目標値を達成	4
B 目標値との差の50%以上の改善	1
C 目標値との差の50%未満の改善	1
D 横ばい、悪化	3
目標達成又は改善 (A+B+C/計)	6/9

子どものむし歯が減少し、歯科検診受診者が増加するなどの改善が認められたが、成人の歯周病が増加し、中高年の歯の喪失状況の改善がわずかであったことが明らかになった

主な指標	ベースライン値 (H23)	現状値 (H28)	目標値 (H29)	評価
3歳児健康診査時のう蝕罹患率	20.5%	13.5%	20%以下	A
進行した歯周炎を有する人の割合 (40歳)	29.7%	55.3%	26%以下	D
60歳で24歯以上自分の歯が残っている人の割合	48.8%	51.6%	54%以上	B
80歳で20歯以上自分の歯が残っている人の割合	24.8%	26.1%	28%以上	C
過去1年間で歯科検診を受診した者の割合	42.9%	48.2%	47%以上	A

○今後の課題

- ・働く世代の歯周病予防策を一層推進し、中高年での歯の喪失を少なくするような取組が必要
- ・国が定めた「歯科口腔保健の基本的事項」を参考に、新たな指標及び目標値の設定が必要

6 計画の基本方針

○歯科疾患の予防

むし歯や歯周病等の歯科疾患の成り立ちについて、広く県民に普及啓発を行うとともに、一次予防に重点を置いた施策を推進

○口腔機能の維持・向上

口腔機能は食生活や話すことなど、生活の質を維持することと深くかかわっているため、生涯にわたって自分の口から食べることができるよう口腔機能の維持・向上を推進

○特に配慮が必要な分野における歯科口腔保健の推進

障害者（児）、要介護者などに対して、その状況に応じた支援を行うとともに、妊産婦や基礎疾患を有する人など、特に配慮が必要な分野における歯科口腔保健を推進

○歯と口腔の健康づくりを推進するために必要な社会環境の整備

歯科保健医療提供体制を整備するとともに、歯科口腔保健に携わる人材に対して、適切な情報を提供し研修を実施する等、資質向上に努める

★4つの各基本方針に沿って、新たな指標及び目標値を追加し、ライフステージに応じた切れ目のない歯科保健施策の展開を目指す

「第2次いしかわ歯と口腔の健康づくり推進計画」における目標値の進捗状況

基本方針	目標項目	ベースライン値 (H28)	経過値 (R1)	現状値 (R3)	目標値 (R5)	全国	データソース		
歯科疾患の予防	乳幼児期	3歳でむし歯のない者の割合の増加	86.5%	87.8%	90.7%	90%	88.2% (R2)	3歳児歯科健康診査	
	学齢期	12歳児の一人平均むし歯数の減少	1.0歯 (H29)	0.9歯	0.8歯	0.8歯	0.63歯 (R3)	学校保健統計調査	
		12歳児でむし歯のない者の割合の増加	58.4%	65.2%	68.5%	65%	71.7% (R3)		
		10歳代(15～19歳)における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少※1	24.7%	18.9%	-	20%	19.8% (H28)	【県】 県民健康・栄養調査※2 【国】歯科疾患実態調査	
	成人期・高齢期	進行した歯周炎(4mm以上の歯周ポケット)を有する者の割合の減少	40歳代	58.3%	49.1%	50.0%	52%	44.7% (H28)	【県】 ～H29: 事業所及び市町 歯周病検診結果 H30～: 市町歯周病検診 結果 【国】 歯科疾患実態調査
			50歳代	63.3%	59.8%	58.6%	57%	50.7% (H28)	
			60歳代	65.6%	63.6%	63.1%	59%	59.4% (H28)	
		未処置歯を有する者の割合の減少	40歳: 35～44歳	40.9%	36.4%	32.7%	36%	35.1% (H28)	
			60歳: 55～64歳	37.0%	32.8%	25.4%	33%	34.4% (H28)	
		40歳(35～44歳)で喪失歯のない者の割合の増加	81.6%	86.1%	84.0%	85%	73.4% (H28)	【県】 県民健康・栄養調査※2 【国】 歯科疾患実態調査 (8020、6024)、 国民健康・栄養調査 (歯科検診を受診した 者の割合)	
		60歳(55～64歳)で24歯以上自分の歯を有する者の割合の増加	51.6%	50.5%	-	60%	74.4% (H28)		
		80歳(75～84歳)で20歯以上自分の歯を有する者の割合の増加	26.1%	28.0%	-	35%	51.2% (H28)		
		8020運動の意味を知っている人の割合の増加(20歳以上)	46.3%	46.8%	-	60%	-		
		糖尿病と歯周病の関連を知っている人の割合の増加(20歳以上)	40.0%	42.9%	-	50%	-		
		喫煙と歯周病の関連を知っている人の割合の増加(20歳以上)	41.4%	42.8%	-	50%	-		
		口腔清掃状態と肺炎の関連を知っている人の割合の増加(20歳以上)	41.6%	47.7%	-	50%	-		
	歯や口腔に関する悩みを持つ人の割合の減少(20歳以上)	49.7%	54.2%	-	45%	-			
	過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加(20歳以上)	47.9%	49.4%	-	52%	52.9% (H28)			
	歯周病検診実施市町数	16市町 (H29)	全市町 (R2)	全市町 (R4)	全市町	-	健康推進課調べ		
口腔機能の維持・向上	ゆっくりよく噛んで食事をしている人の割合		50.2%	52.5%	-	増加	-	【県】 県民健康・栄養調査※2 【国】 国民健康・栄養調査	
	咀嚼良好者の割合の増加	60歳代	66.7%	70.4%	-	73%	71.5% (R1)		
		80歳代以上	57.1%	57.8%	-	63%	54.9% (R1)		
配慮が必要な分野	妊婦歯科健診実施市町数		16市町 (H29)	全市町 (R2)	全市町 (R4)	全市町	-	健康推進課調べ	
	障害者支援施設及び障害児入所施設での定期的な歯科検診実施率の増加		78.8% (H29)	72.7% (R2)	84.4% (R4)	90%	62.9% (H28)	【県】健康推進課調べ 【国】厚生労働科学特別研究	
	在宅療養支援歯科診療所数※3		57診療所 (H29)	40診療所 (R2)	40診療所 (R4)	増加	-	東海北陸厚生局 ホームページ 施設基準の届出受理状況	
	口腔衛生管理体制加算を算定している介護保険施設の割合※4		37.4% (H29)	45.5% (R2)	-	増加	-	長寿社会課調べ	
	日本糖尿病協会歯科医師登録医の数		41名 (H29)	35名 (R2)	35名 (R4)	増加	-	日本糖尿病協会 ホームページ	
	がん診療連携登録歯科医の数		101名 (H29)	107名 (R2)	120名 (R4)	増加	-	国立がん研究センター がん情報サービス ホームページ	
社会環境の整備	歯科口腔保健の推進に関する条例または基本的事項を制定している市町数		18市町 (H29)	全市町	全市町	全市町	-	健康推進課調べ	

※1 国項目は「中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少」
 ※2 H28に実施した調査と比較し、R1調査の回答者数は約1/3であり、R1経過値については参考値として扱う
 ※3 R2より施設基準引き上げ
 ※4 R3の介護報酬改定において、口腔衛生管理体制加算は廃止

参 考 资 料

○ 現状値の分析結果

「第2次いしかわ歯と口腔の健康づくり推進計画」巻末の参考資料（現状値の分析結果）のうち、現状値が更新できるものについて、最新のデータを掲載した。

I	乳幼児期・学齢期の歯科疾患の罹患状況	1
1	1歳6か月児歯科健診結果	1
2	3歳児歯科健診結果	3
3	保育所・認定こども園入所児の歯科健診結果	5
4	幼稚園児のむし歯の罹患状況	9
5	小学生のむし歯・歯肉炎の罹患状況	10
6	中学生のむし歯・歯肉炎の罹患状況	12
7	高校生のむし歯・歯肉炎の罹患状況	14
II	事業所及び市町歯周病検診結果	16
1	調査の概要	16
2	歯周炎・未処置歯・喪失歯の有無	18

I 乳幼児期・学齢期の歯科疾患の罹患状況

1 1歳6か月児歯科健診結果 【出典：母子保健の主要指標】

- むし歯有病者率及び一人平均むし歯数は、経年的に減少しており、全国と同程度から低い傾向で推移しています。
- 地域別では、むし歯有病者率・一人平均むし歯数ともに経年的に減少しています。

図1 1歳6か月児のむし歯有病者率

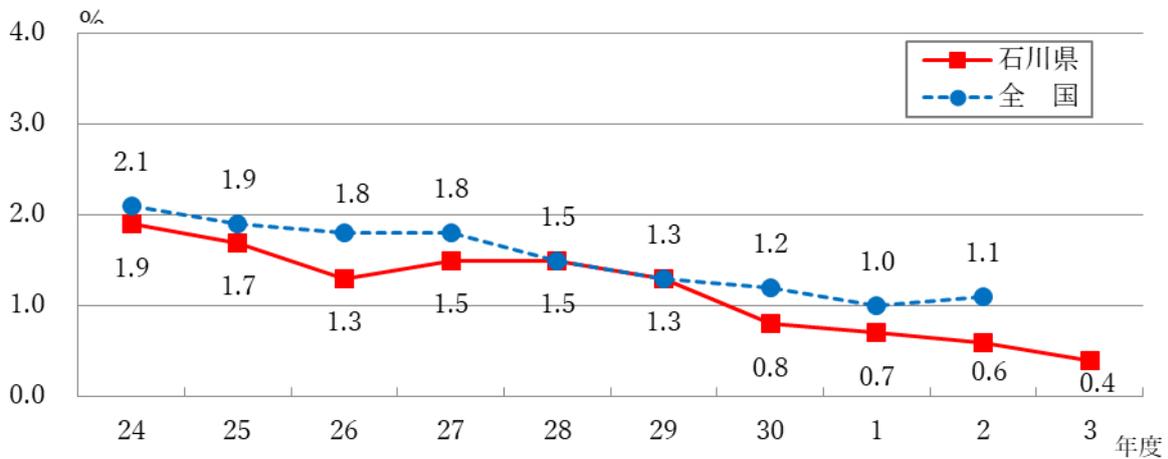


図2 1歳6か月児の一人平均むし歯数

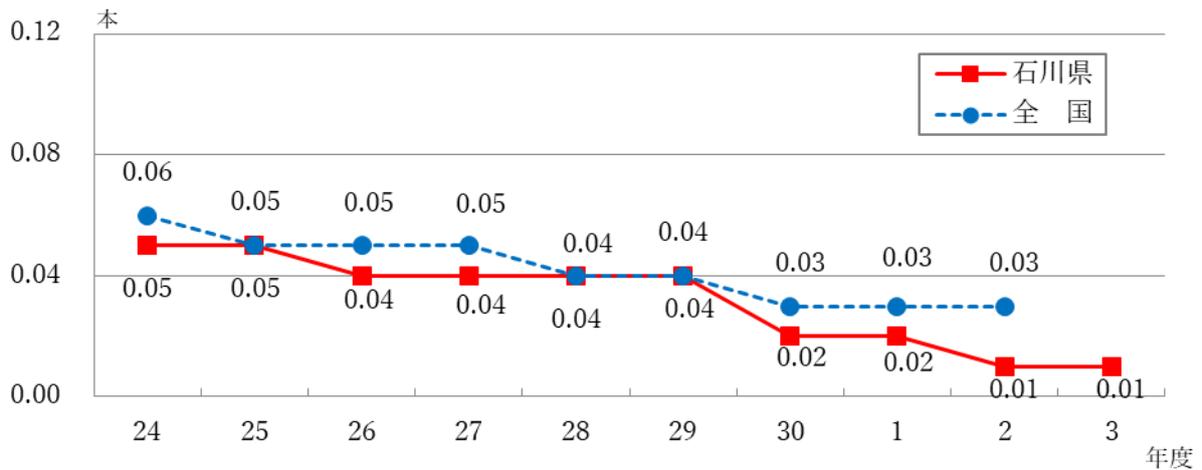


図3 1歳6か月児のむし歯有病者率（3年移動平均、地域別） ※3年移動平均の中央年度

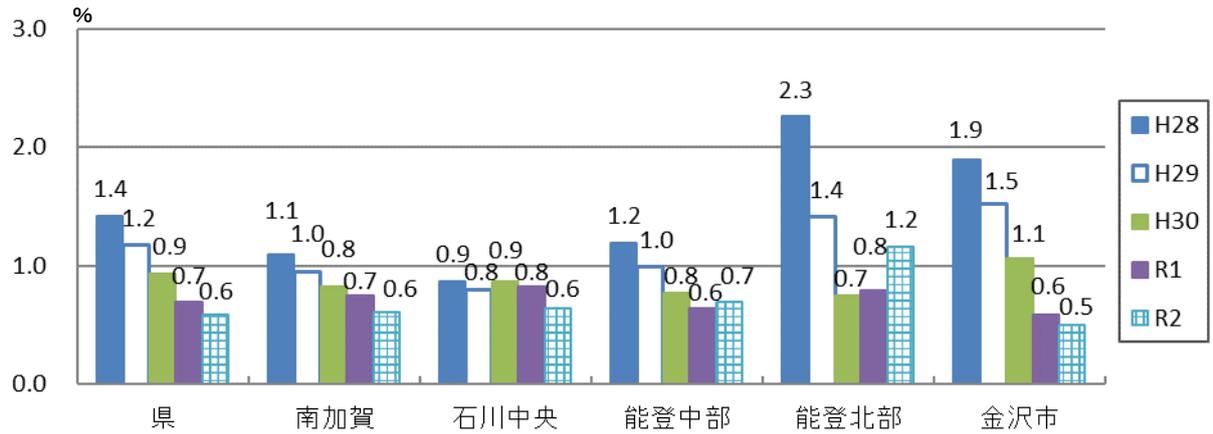
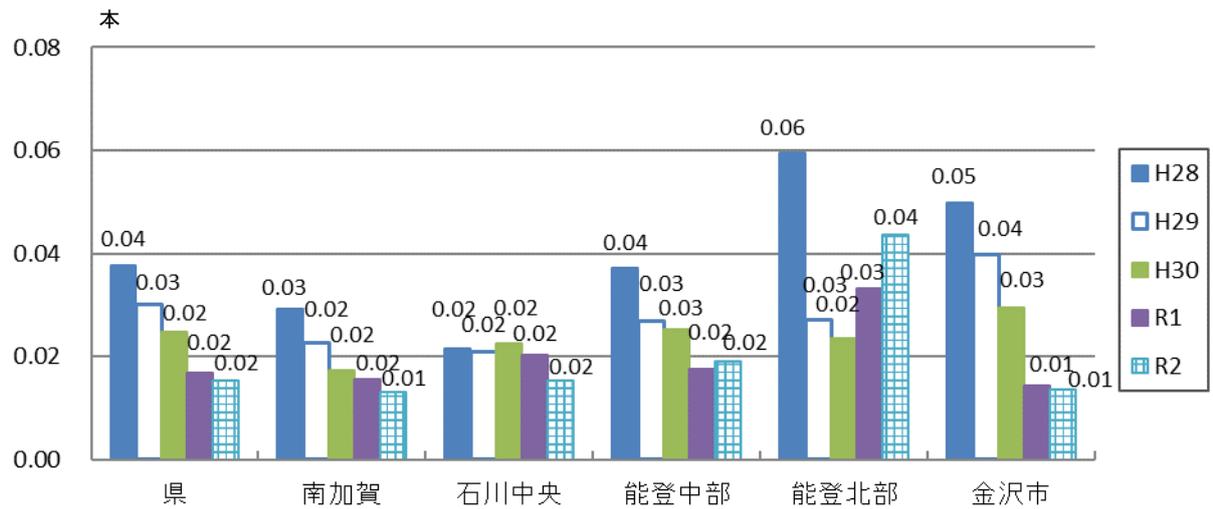


図4 1歳6か月児の一人平均むし歯数（3年移動平均、地域別） ※3年移動平均の中央年度



2 3歳児歯科健診結果 【出典：母子保健の主要指標】

- むし歯有病者率及び一人平均むし歯数は、経年的に減少しており、全国と同程度で推移しています。
- 地域別では、むし歯有病者率・一人平均むし歯数ともに経年的に減少しています。
- 不正咬合を持つ3歳児の割合は、年度ごとのばらつきがあるものの、経年的に横ばいで推移しています。

図5 3歳児のむし歯有病者率

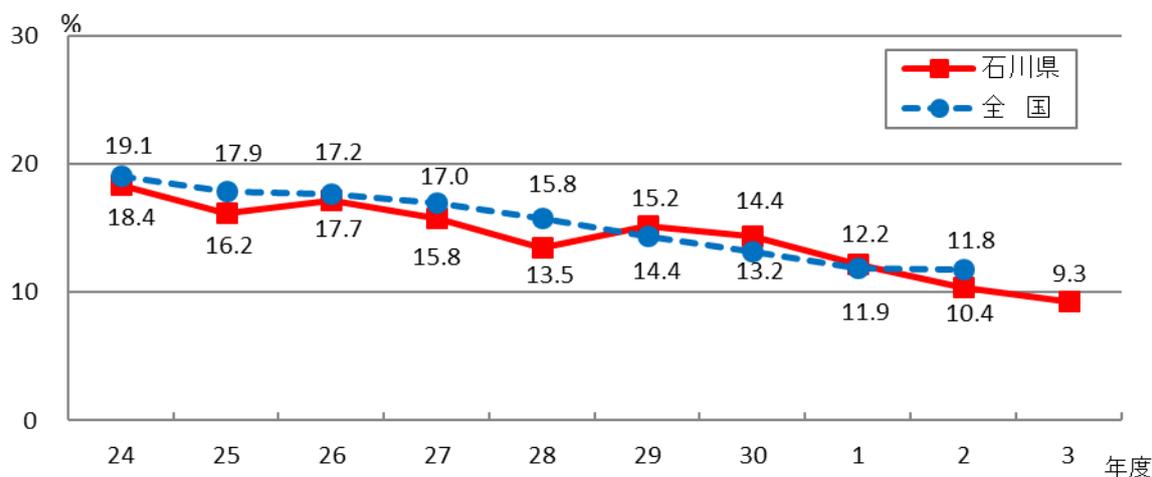


図6 3歳児の一人平均むし歯数

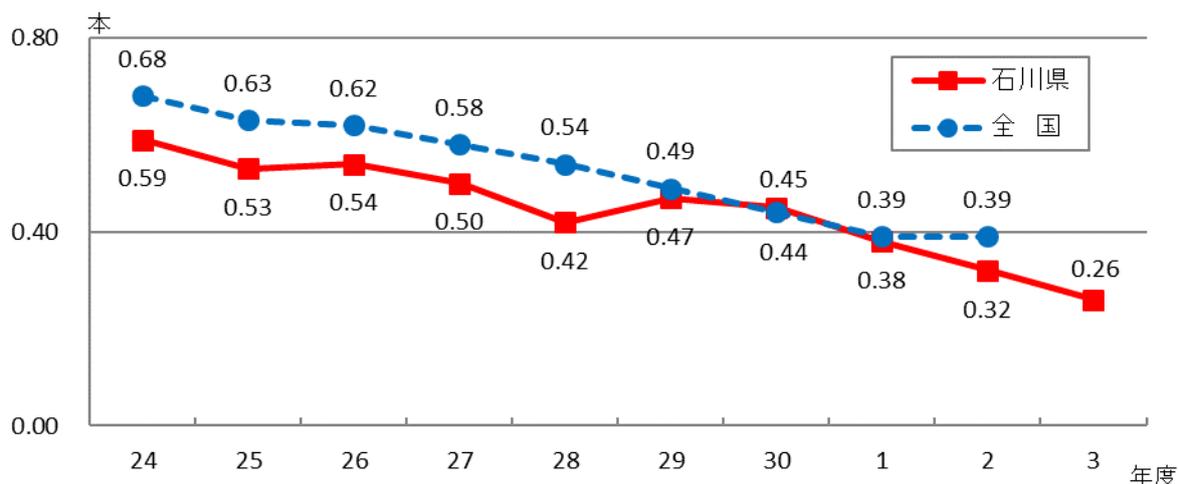


図7 3歳児のむし歯有病者率（3年移動平均、圏域別） ※3年移動平均の中央年度

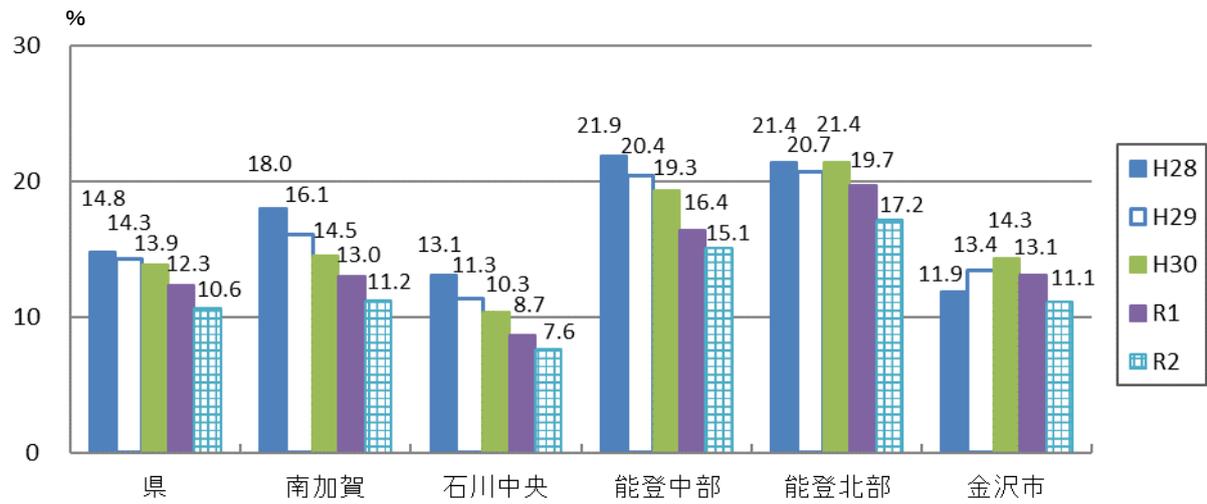


図8 3歳児の一人平均むし歯数（3年移動平均、圏域別） ※3年移動平均の中央年度

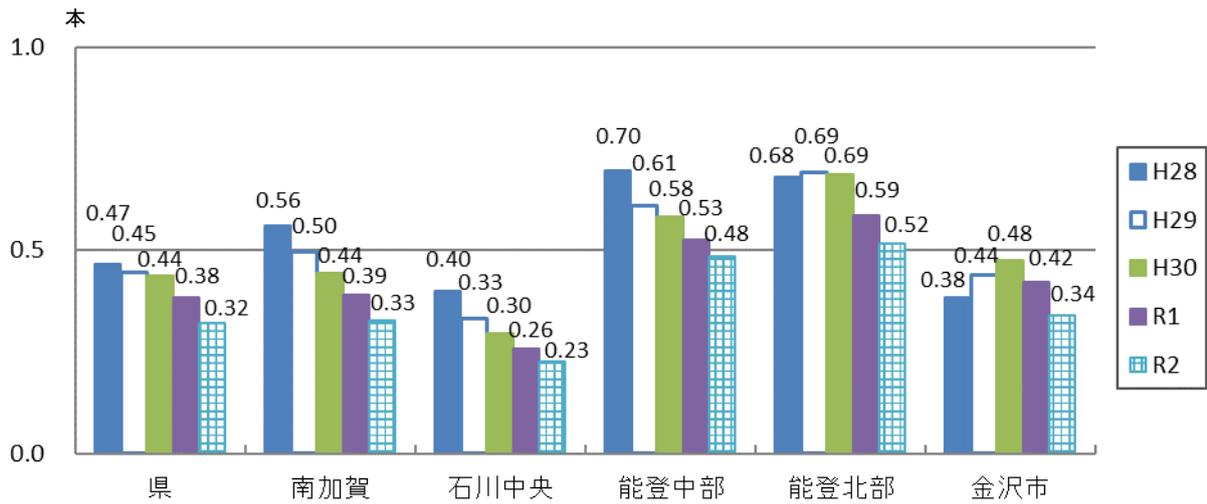
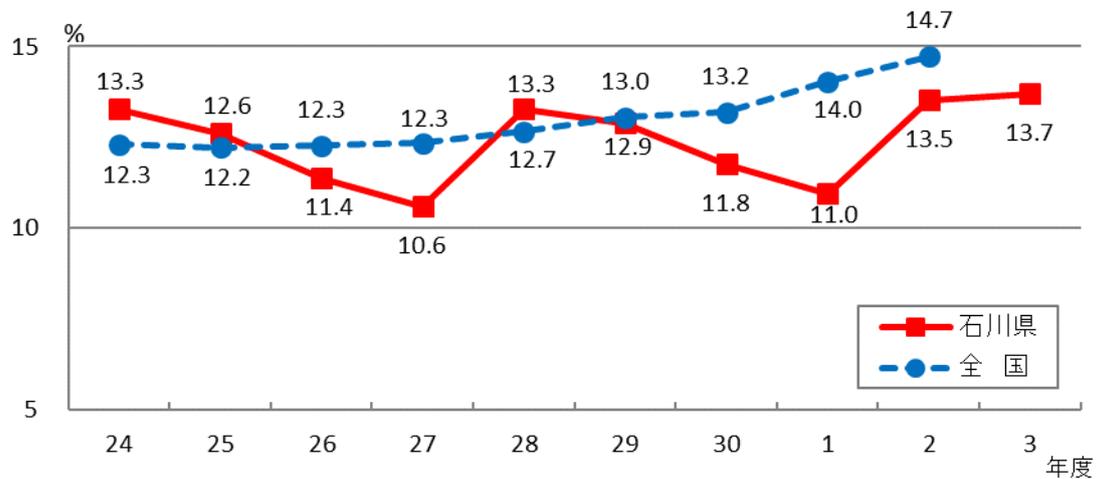


図9 3歳児の不正咬合を持つ者の割合



3 保育所・認定こども園入所児の歯科健診結果^{※1} 【出典：少子化対策監室調べ】

○ 乳歯のむし歯有病者率・一人平均むし歯数は、年中児、年長児ともに経年的に減少していますが、市町によりむし歯罹患状況に差が認められます。

○ 年長児の永久歯^{※2}のむし歯有病者率及び一人平均むし歯数は、年度ごとにばらつきがあるものの、近年は横ばいで推移しています。

※1：H27までは金沢市を除く18市町の結果。H28以降は金沢市を含む19市町の結果。

※2：H30までは第一大臼歯、R1以降は永久歯として調査を行った。

図10 乳歯のむし歯有病者率

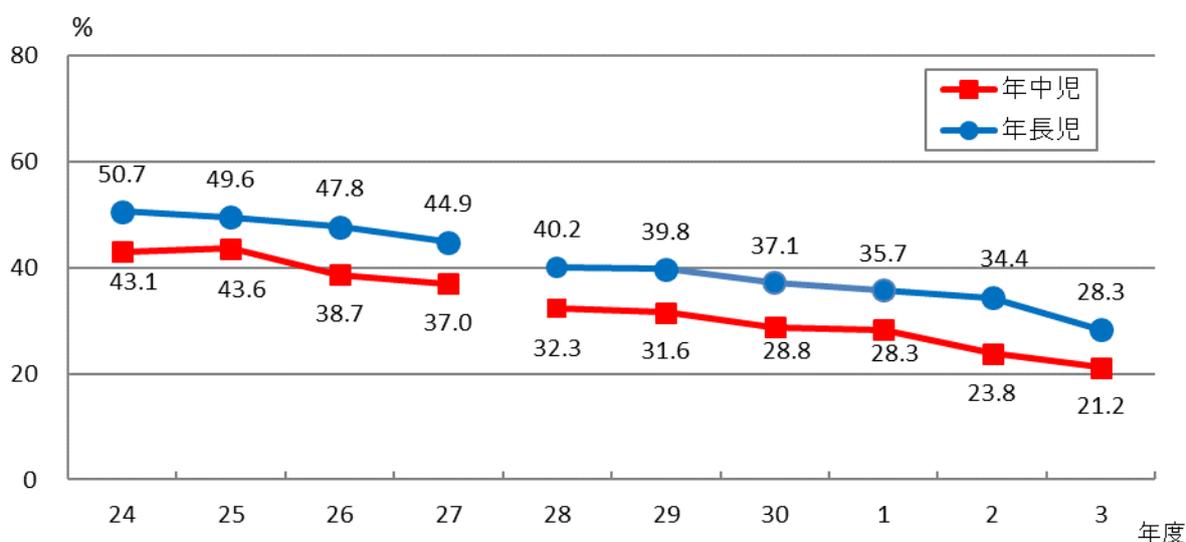


図11 乳歯の一人平均むし歯数

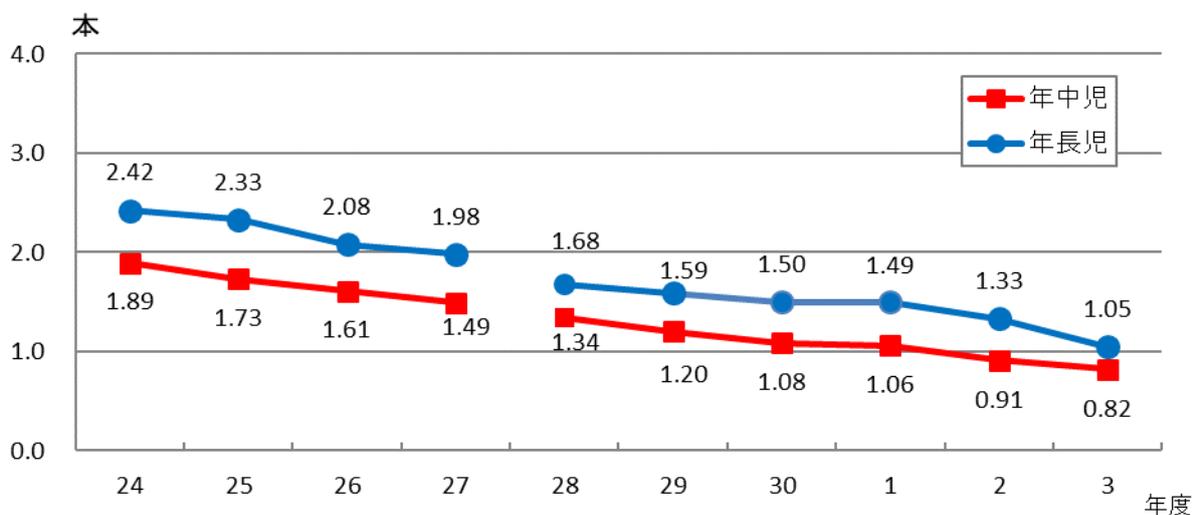


図12 年中児の乳歯のむし歯有病者率（3年移動平均、市町別）※3年移動平均の中央年度

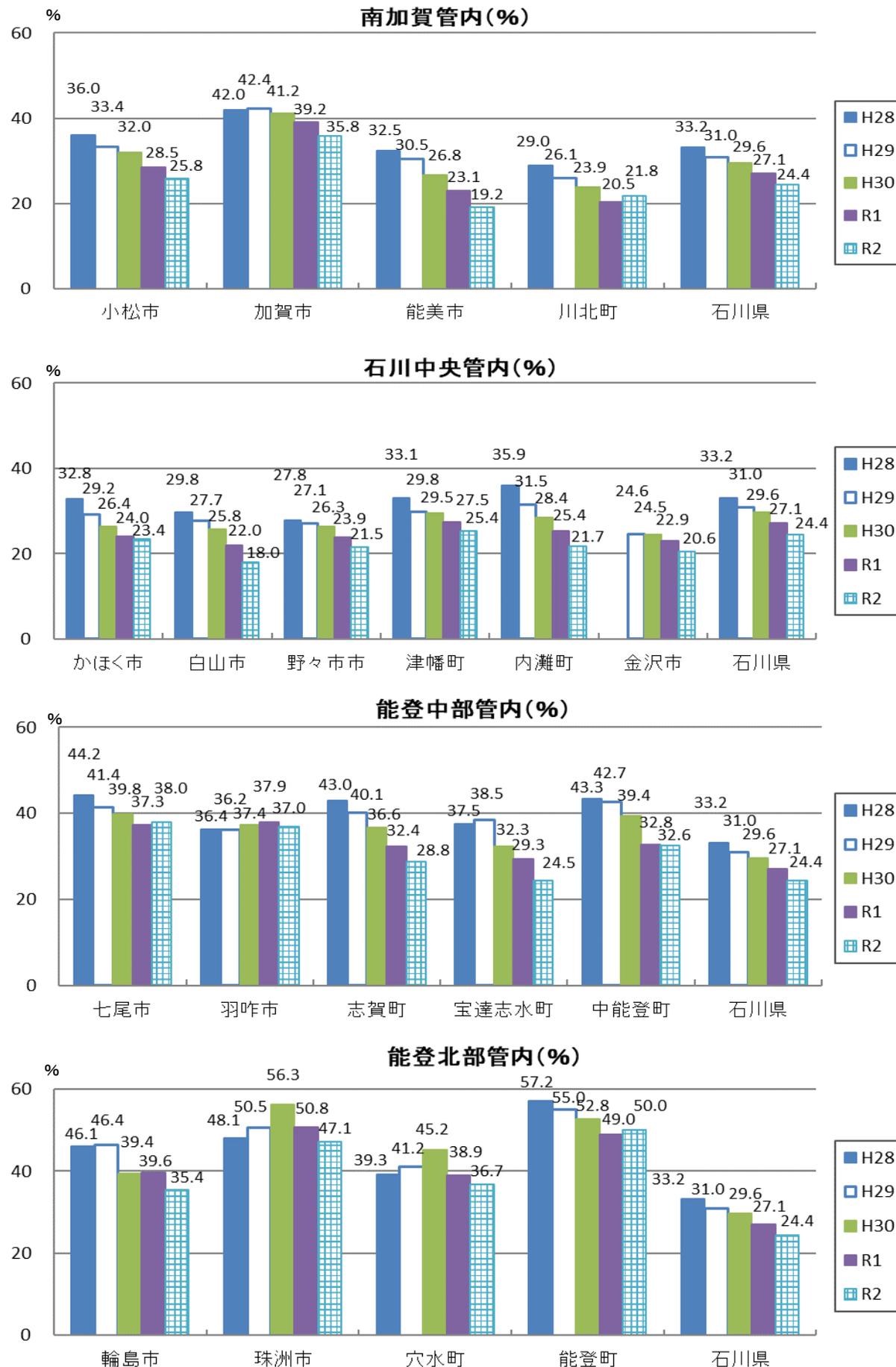


図13 年長児の乳歯のむし歯有病者率（3年移動平均、市町別）※3年移動平均の中央年度

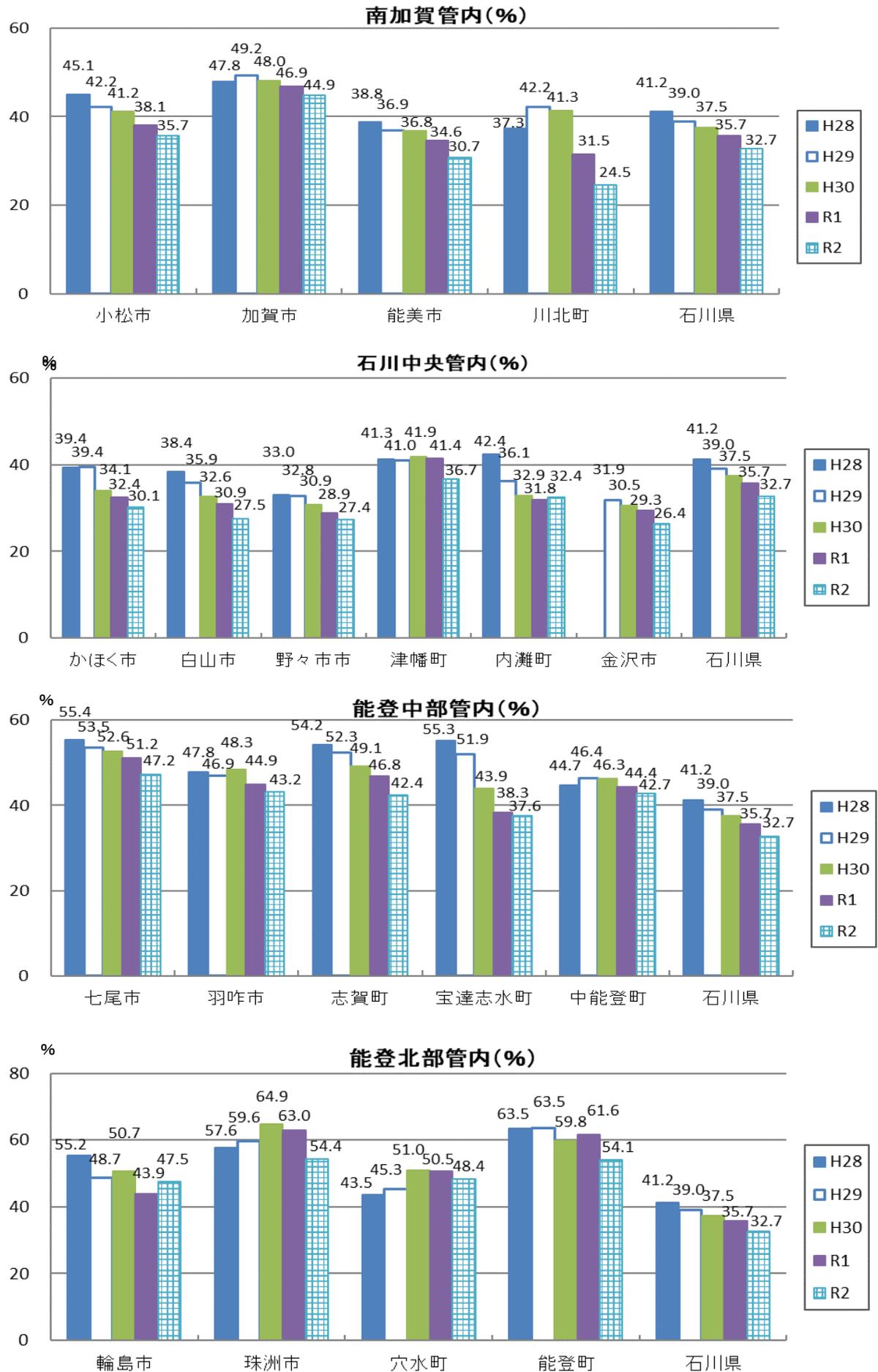


図 1 4 年長児の永久歯のむし歯有病者率 ※H 3 0 までは第一大臼歯のみ

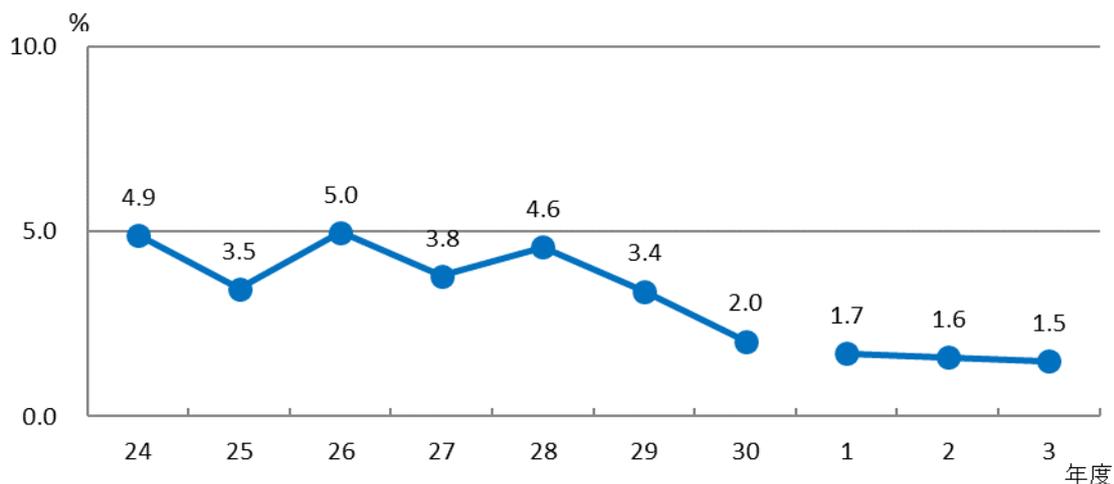
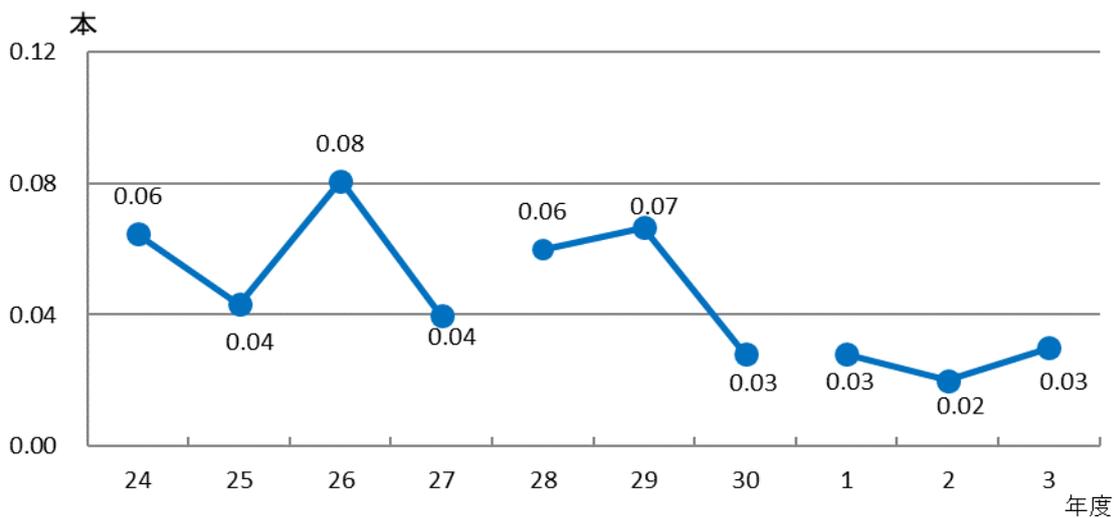


図 1 5 年長児の永久歯の一人平均むし歯数 ※H 3 0 までは第一大臼歯のみ



4 幼稚園児のむし歯の罹患状況 【出典：学校保健統計調査】

○ むし歯有病者率及び未処置歯がある者の割合は、経年的に減少しており、近年は全国と同程度で推移しています。

※ 平成22年度、令和2年度の石川県のデータは、疾病・異常の被患率等の標準誤差5%以上、受検者数が100人（5歳児は50人）未満、又は回答校が1校以下のため非公表

図16 幼稚園児のむし歯有病者率

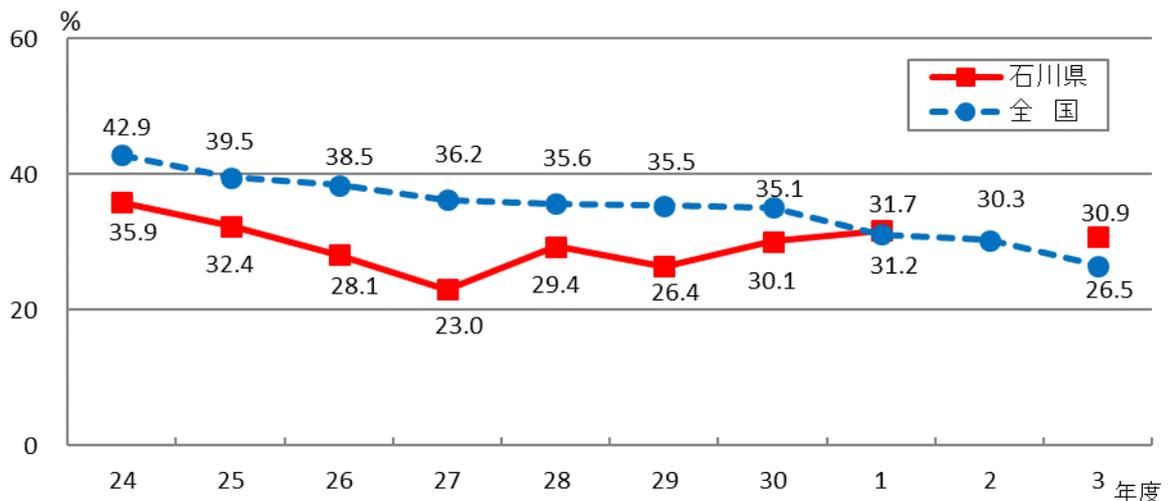
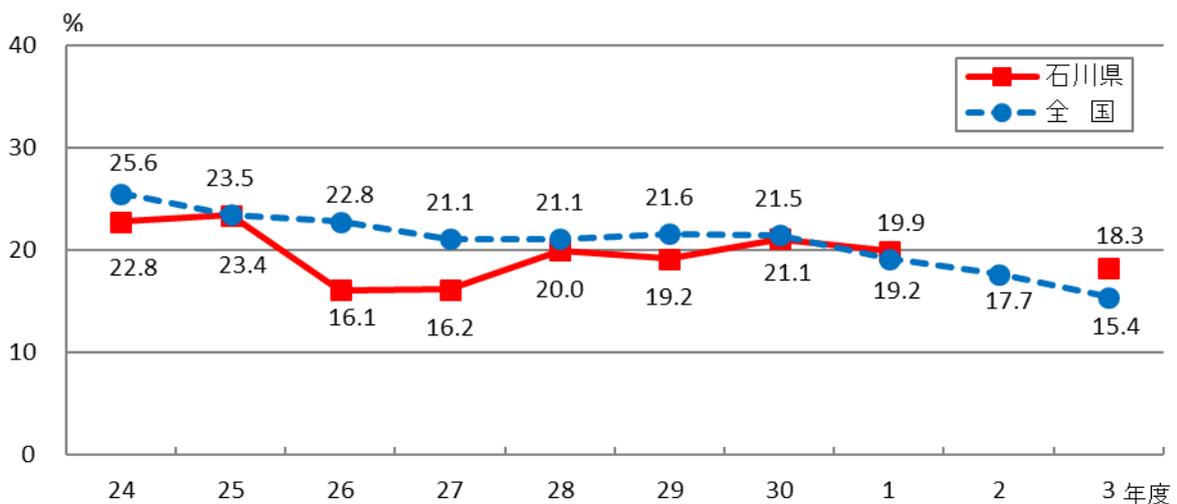


図17 幼稚園児の未処置歯がある者の割合



5 小学生のむし歯・歯肉炎の罹患状況 【出典：学校保健統計調査】

- むし歯有病者率は、経年的に減少しており、全国と同程度で推移しています。
- 未処置歯がある者の割合は、経年的に減少しており、全国より高く推移しています。
- 歯垢の付着がある者の割合及び歯肉炎がある者の割合は、年度ごとのばらつきがあるものの、経年的には横ばいで推移しています。

図18 小学生のむし歯有病者率

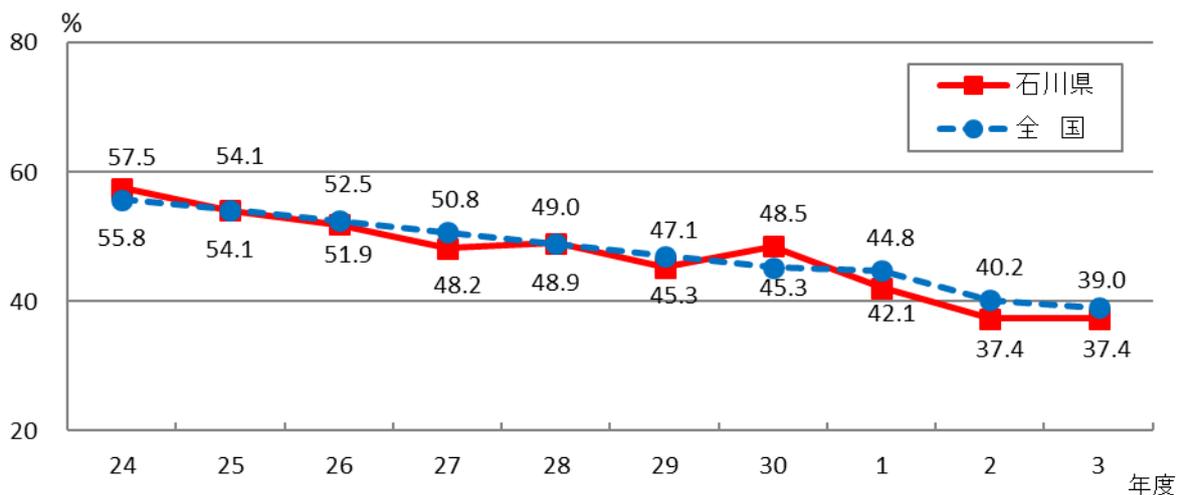


図19 小学生の未処置歯がある者の割合

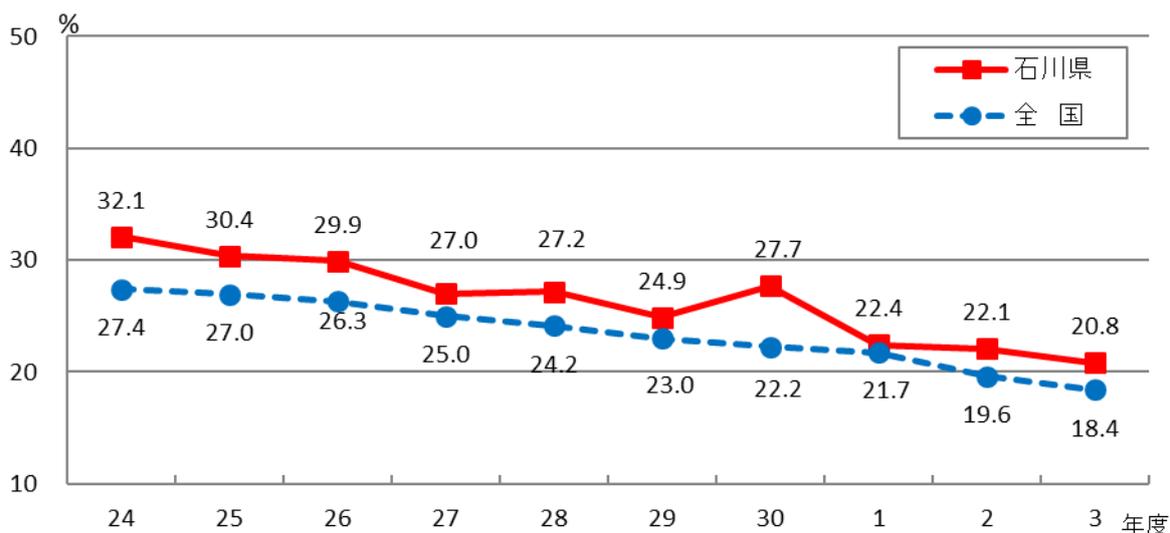


図20 小学生の歯垢の付着がある者（要受診判定者）の割合

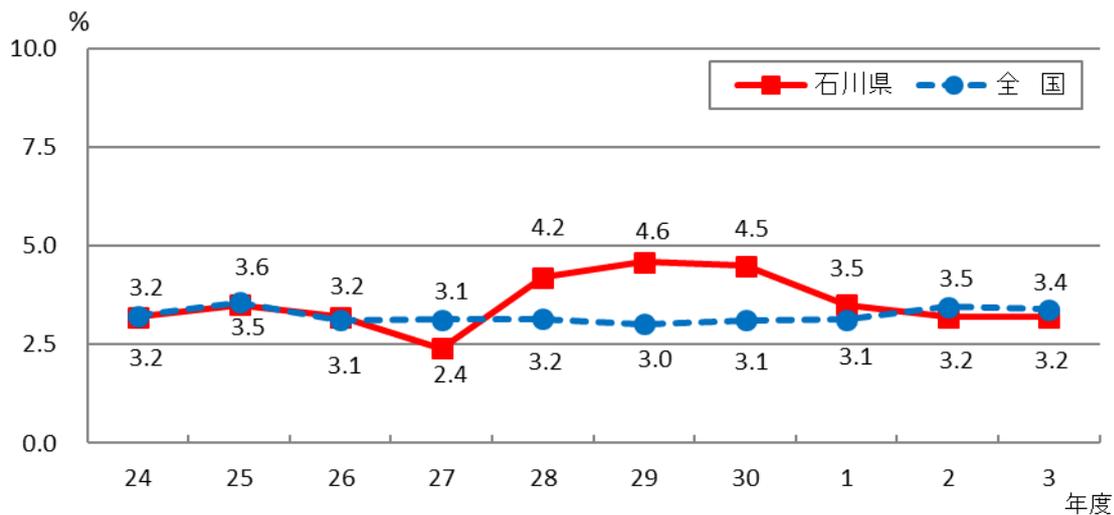
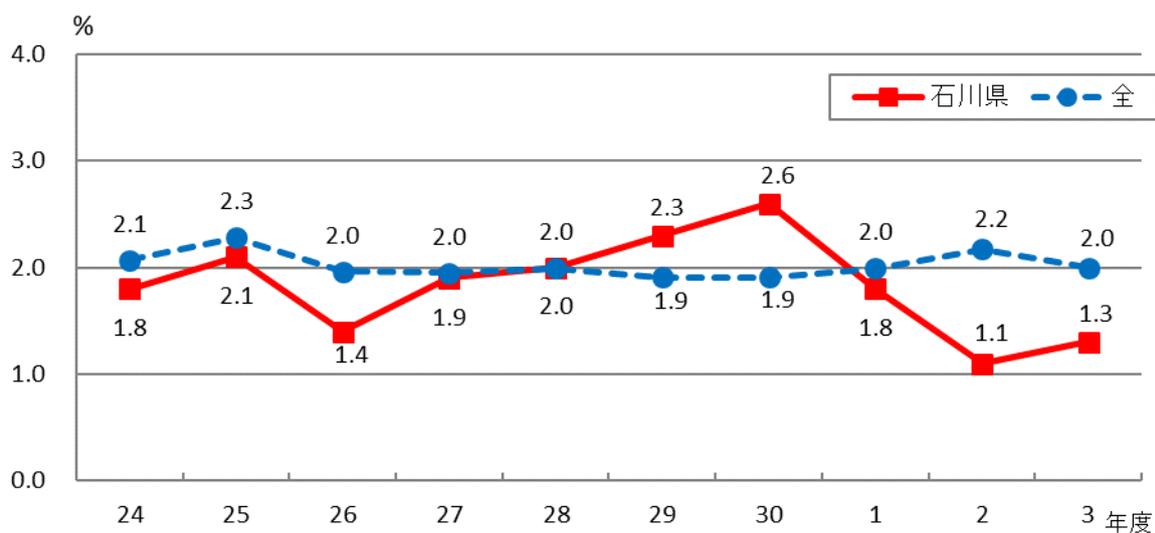


図21 小学生の歯肉炎がある者（要受診判定者）の割合



6 中学生のむし歯・歯肉炎の罹患状況 【出典：学校保健統計調査】

- むし歯有病者率及び未処置歯がある者の割合は、経年的に減少しており、近年は全国と同程度で推移しています。
- 歯垢の付着がある者の割合及び歯肉炎がある者の割合は、年度ごとのばらつきがあるものの、経年的には横ばいで推移しています。
- 12歳児の一人平均むし歯数は、経年的に減少していますが、全国より高く推移しています。

図2-2 中学生のむし歯有病者率

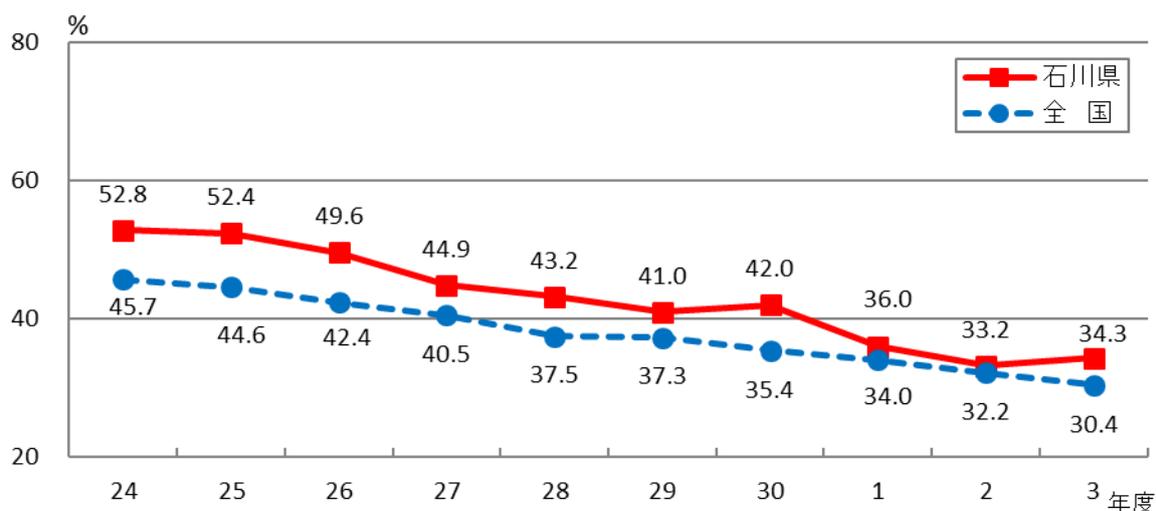


図2-3 中学生の未処置歯がある者の割合

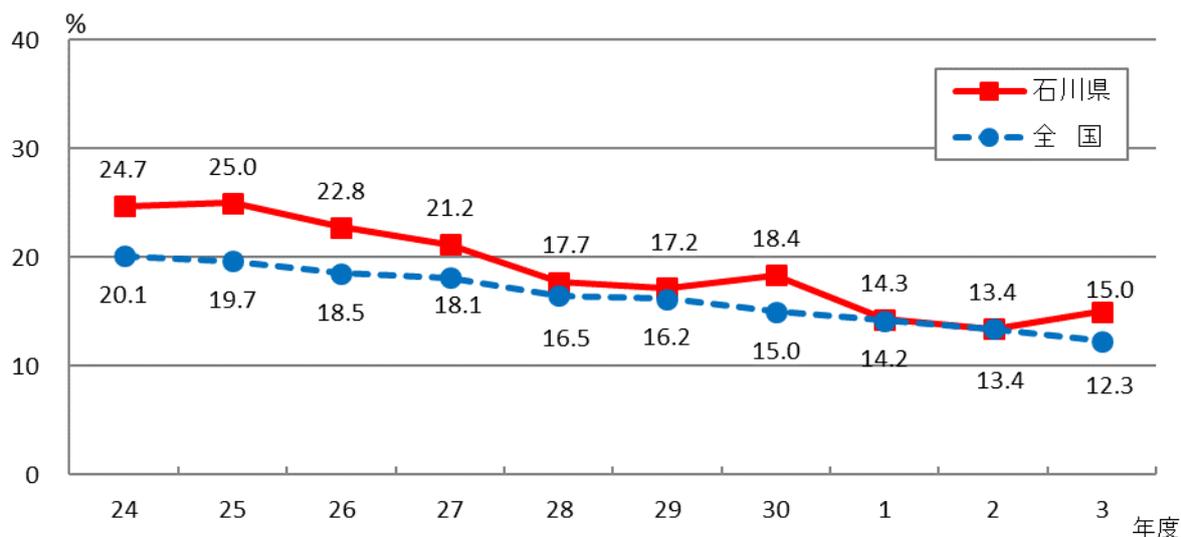


図24 中学生の歯垢の付着がある者（要受診判定者）の割合

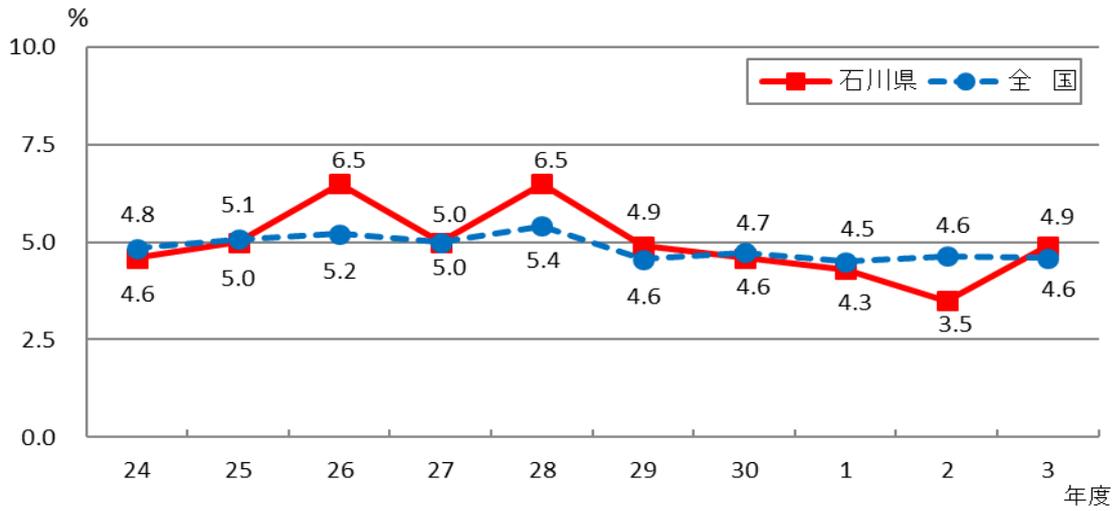


図25 中学生の歯肉炎がある者（要受診判定者）の割合

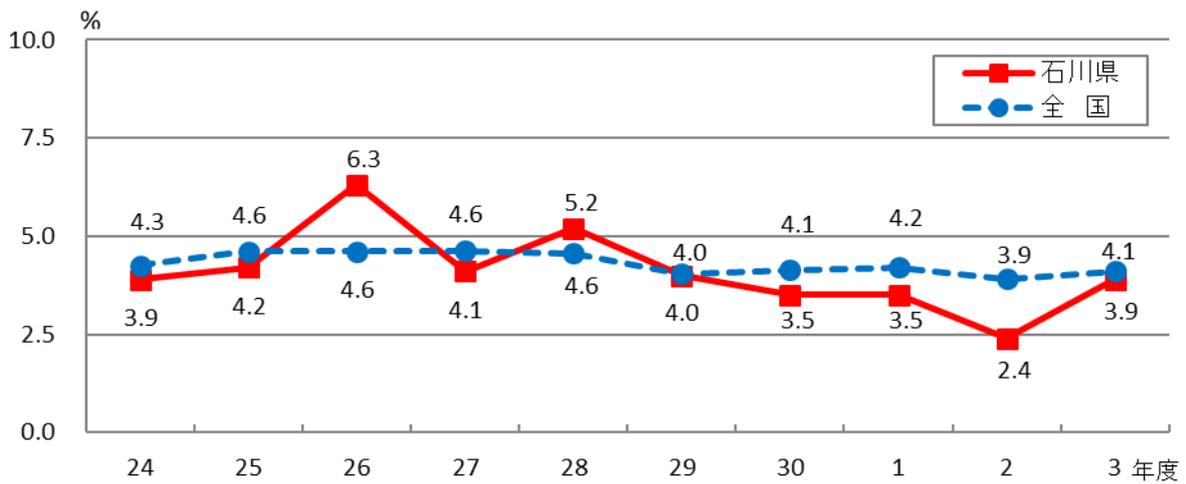
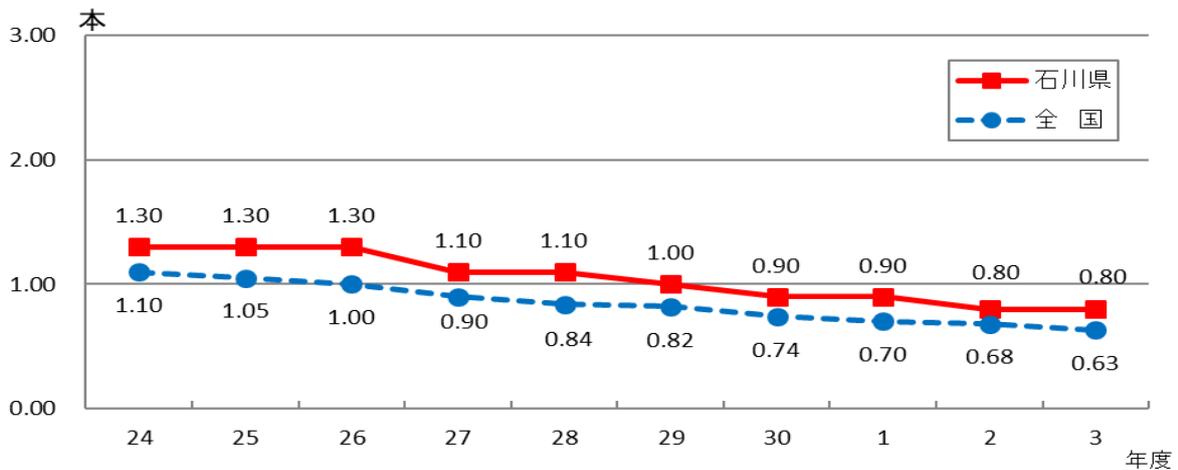


図26 12歳児の一人平均むし歯数（DMF歯数）



7 高校生のむし歯・歯肉炎の罹患状況 【出典：学校保健統計調査】

- むし歯有病者率及び未処置歯がある者の割合は、経年的に減少しており、全国と同程度で推移しています。
- 歯垢の付着がある者の割合及び歯肉炎がある者の割合は、年度ごとにばらつきがあるものの、経年的にはおおむね横ばいで推移しています。

図27 高校生のむし歯有病者率

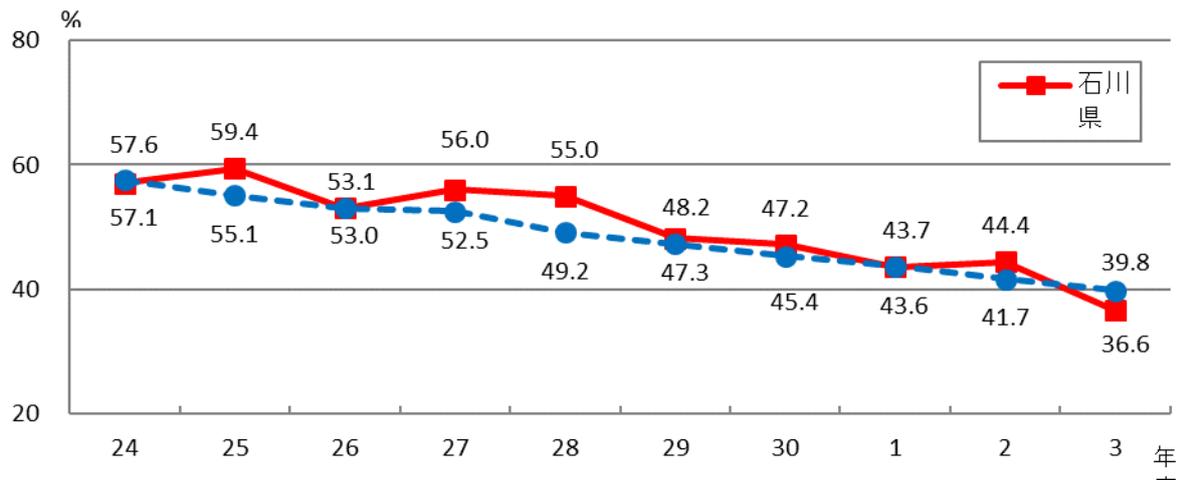


図28 高校生の未処置歯がある者の割合

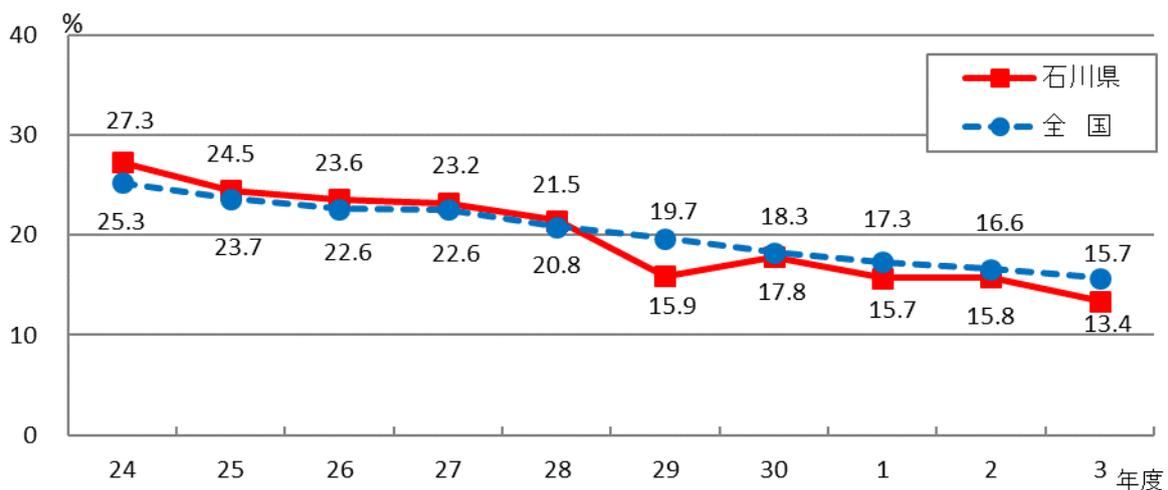


図29 高校生の歯垢の付着がある者（要受診判定者）の割合

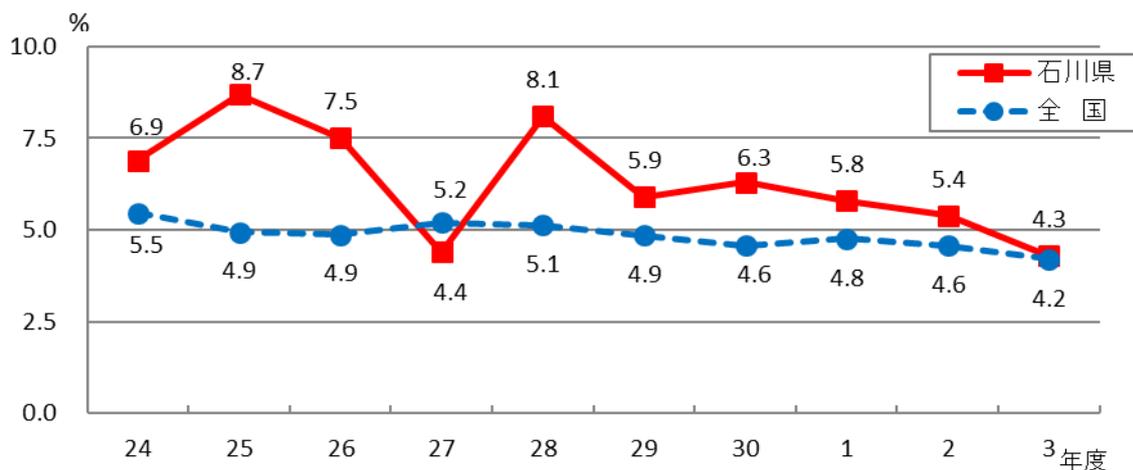
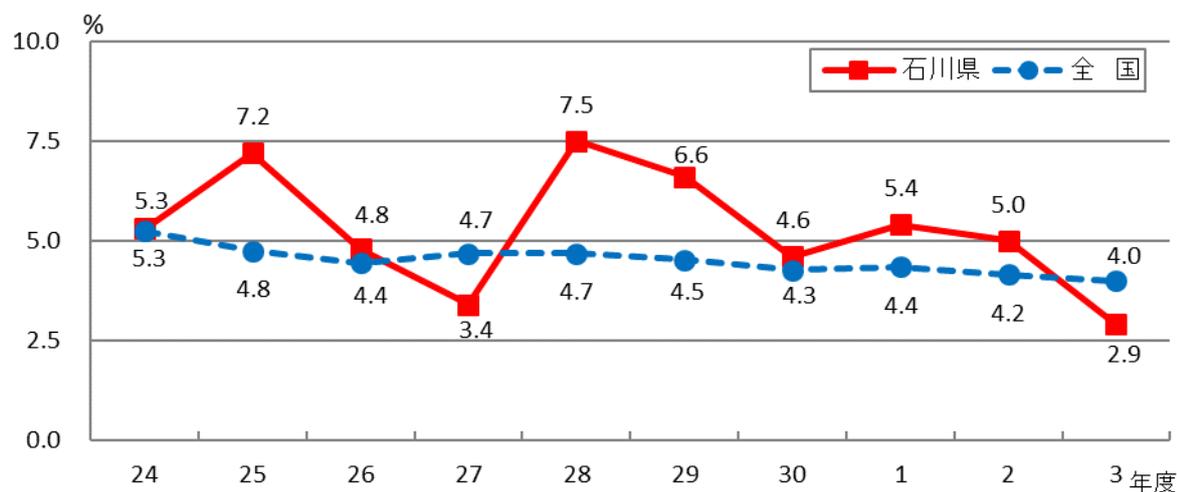


図30 高校生の歯肉炎がある者（要受診判定者）の割合



II 事業所及び市町歯周病検診結果

1 調査の概要

- 進行した歯周炎を有する者（4mm以上の歯周ポケットを有する者）の割合、未処置歯がある者の割合、喪失歯がない者の割合について評価するため、市町が実施する歯周病検診の結果を集計しました。
- 歯周病検診は、H28は15市町、H29は16市町、H30は17市町、R1以降は全19市町で実施されており、令和3年度の20歳以上の受診者総数は6,557名で、受診者の年齢分布は図1、2のとおりでした。
- 受診率（節目年齢のみ）の経年変化を市町別にみると、能登北部管内では県平均より高く推移していました。
- ※ H28は「事業所等における歯周病検診結果」を含む
- ※ H30以降は金沢市の対象者見直し等により40歳、50歳等の受診者が減少

図1 受診者の年齢分布（年齢別）

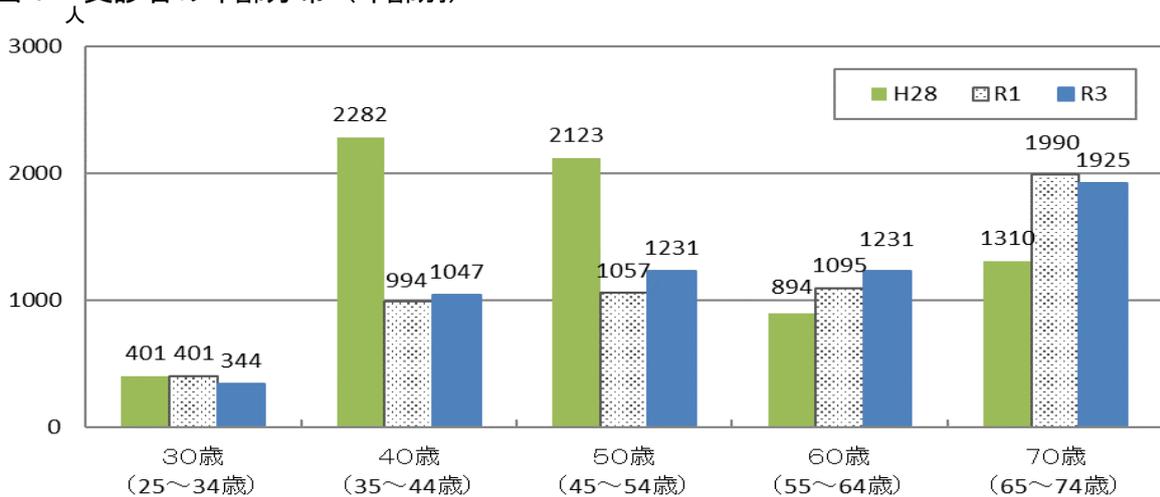


図2 受診者の年齢分布（年代別）

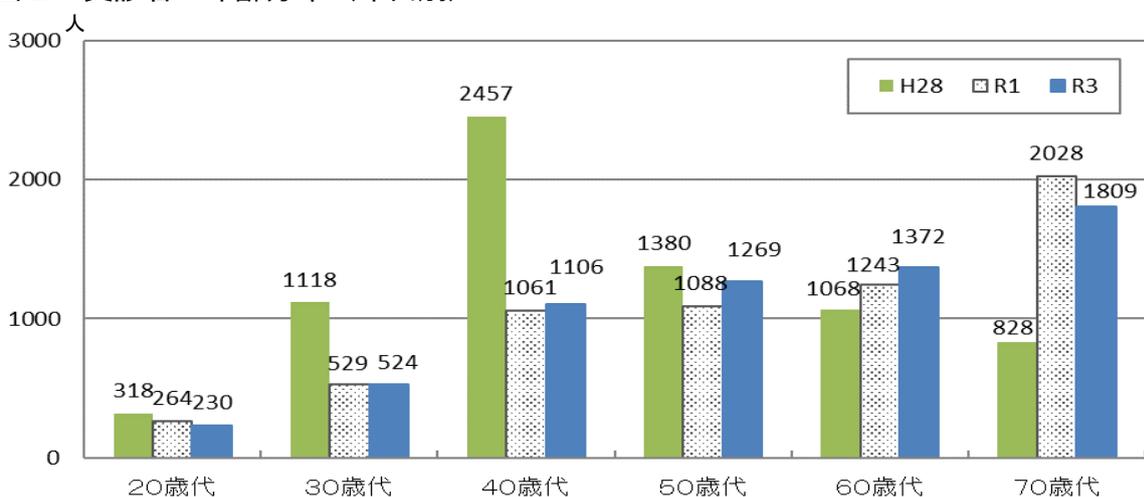
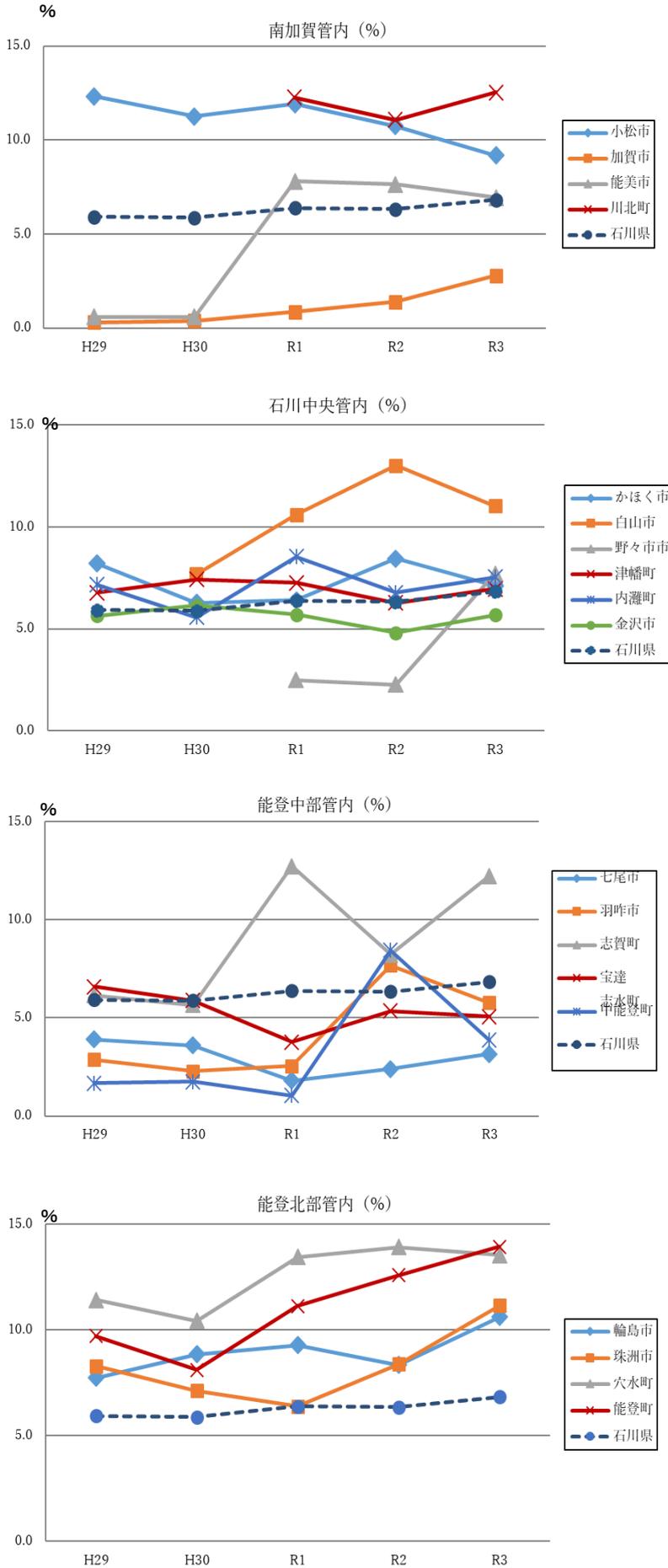


図3 歯周病検診受診率経年変化（市町別、節目年齢のみ）



2 歯周炎・未処置歯・喪失歯の有無

- 進行した歯周炎を有する者（4mm以上の歯周ポケットを有する者）の割合は、おおむね横ばいで推移しており、年齢とともに増加する傾向がありました。
- 未処置歯がある者の割合は、おおむね全ての年齢で経年的に減少しています。
- 喪失歯がない者の割合は、おおむね横ばいで推移しており、年齢が高くなるほど減少していました。

図4 進行した歯周炎がある者の割合（年代別、20～70歳代）

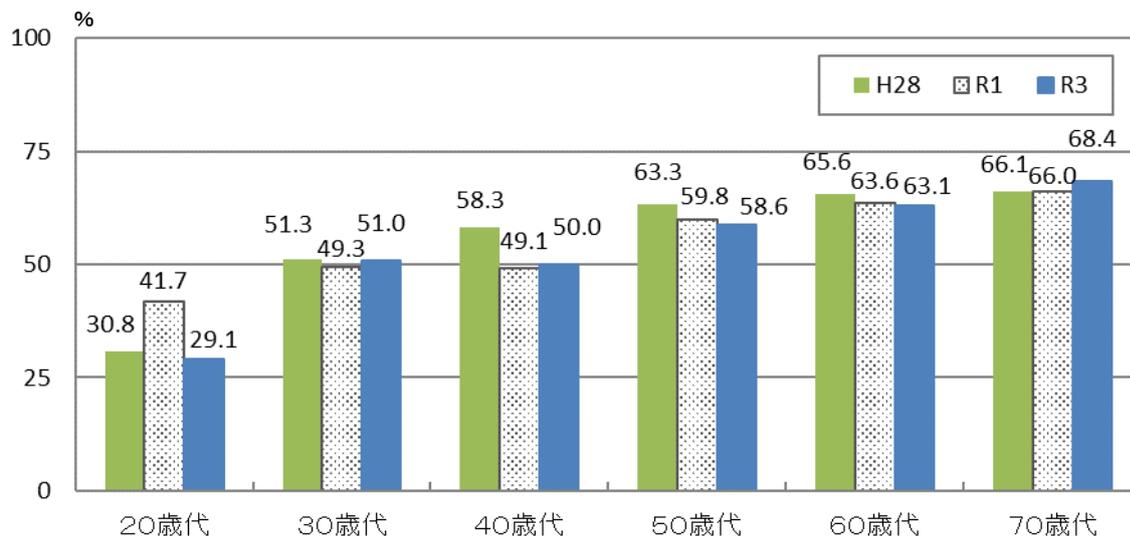


図5 未処置歯がある者の割合（年齢別、30～70歳）

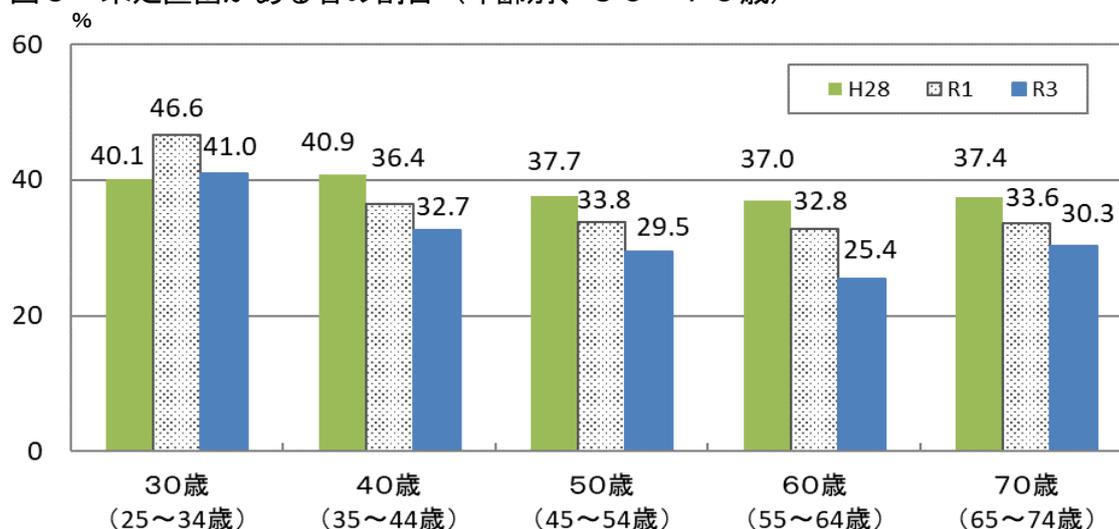


図6 喪失歯がない者の割合（年齢別、30～70歳）

